

## 「第4回 クリエイティブ・サービスにおけるアジア・米国比較ワークショップ参加報告書」

京都大学経済学部・研究科4年 山本美樹

## ①学習成果

参加する前は、語学面の不安があり、日本でのやりたいことに重きを置いていたため留学したことがなく、興味はあるけれど無知な状態でした。また、イノベーションマネジメントの学習はしていましたが、あくまで日本での事しかイメージできず、シリコンバレーでの実際は、本で読んだりインターネットの記事を読んだりするしかありませんでした。

今回の派遣に参加して、まず海外にもう一度出たいという思いが強くなりました。大学の間に留学できなかったから仕方がないとあきらめていましたが、社会人になってからも留学したり、駐在したりという方法があり、そのような形をとって今シリコンバレーで働いている方にたくさんお会いしたからです。

また、イノベーションはシリコンバレーが日本よりも3年は進んでいるとのお話を聞きました。企業訪問をたくさんする中で、今何が問題で、何が新たに必要か？この問いに対する解決方法が、イノベーションになりうると感じました。日本には今後イノベーションが必要です。したがって、卒業までのあと半年は問題意識を強く持つために勉強し、社会に出てからも自身の問題意識の解決策を考えていきたいという意欲が芽生えました。

## ②海外での経験

一番の経験は、シリコンバレー、そしてアメリカと、日本の文化的背景の違いです。アメリカは革新的、チャレンジ精神にあふれ、ローコンテクスト文化であり、対照的に日本は、保守的で、失敗を恐れ、ハイコンテクスト文化である。このようによく言われることが多く、実際にその違いも感じました。しかし、より多く感じたのは、簡単に言うと日本は日本人ばかりが歩いているな、ということです。歴史的背景や地理的背景を鑑みると、日本はとても閉鎖的で日本人というくくりを大切にしてきたと感じます。また、ウチソトへの意識も強く、いわゆる自前主義が当たり前です。しかし、シリコンバレーではまだ女性の割合が少ないだとか、問題はありながらも、日本よりはるかにダイバーシティが進んでいました。そして、オープンイノベーションに代表されるように、異なるものとの交流や融合を恐れません。むしろ、そのことによって生まれるものに価値を重く置いています。この点が海外経験の中で一番得られたものです。

## ③プログラム内容

ベンチャー企業を取り巻く様々なフェーズの企業を訪問することは、シリコンバレーでのイノベーションのシステムやそれがうまくいく理由を考える材料となりました。もちろんベンチャー精神といわれるマインドシップが強いことも一因ですが、失敗してもまたチャレンジできるシステム、アイデアを成長させていくことのできるプログラム等、日本では聞きなじみのない段階の企業がたくさんありました。

また、スタンフォード大学でのプレゼンテーションでは、現地の学生の発言の積極性、関心の広さを実感しました。発表内容が日本の文化的背景に寄ったものであるため、まず理解されるかどうか、そこから議論になるのだろうか、と不安でしたが、学生の方々の積極的に理解しようとする姿勢や、自身の意見を発信するスピード感に救われ、時間いっぱいまで議論が続きました。UCバークレー大学では、MBAコースに通っている社会人の方とお話をしました。その方が女性だったこともあって、自身の留学も縁遠いものではないはずだと強く感じることができました。

## ④進路への影響について

自身の就職先はベンチャー企業と呼ばれるものですが、大切なのは、どこに属するかではなく、自身が何を問題と考えて、どのように行動するかを考えることである、と強く感じるようになりました。企業内での新規事業立案の機会やその事業主になれるチャンスもある会社です。今回学んだ、具体的なイノベーションの種とシリコンバレーのマインドシップ、そして、今回の研修を通じて感じた日本特有の性質も生かして、広い視野を持って社会人になりたいと思います。貴重な機会をいただき、本当にありがとうございました。